

4. 活用・整備のイメージ案 - Stage 2

目的

- 宮跡の大きさや、建物の配置・大きさを体感していただく
- 発掘調査でまだわかっていない（発掘調査だけではわからない）遺構等について、検証する場とする

概要

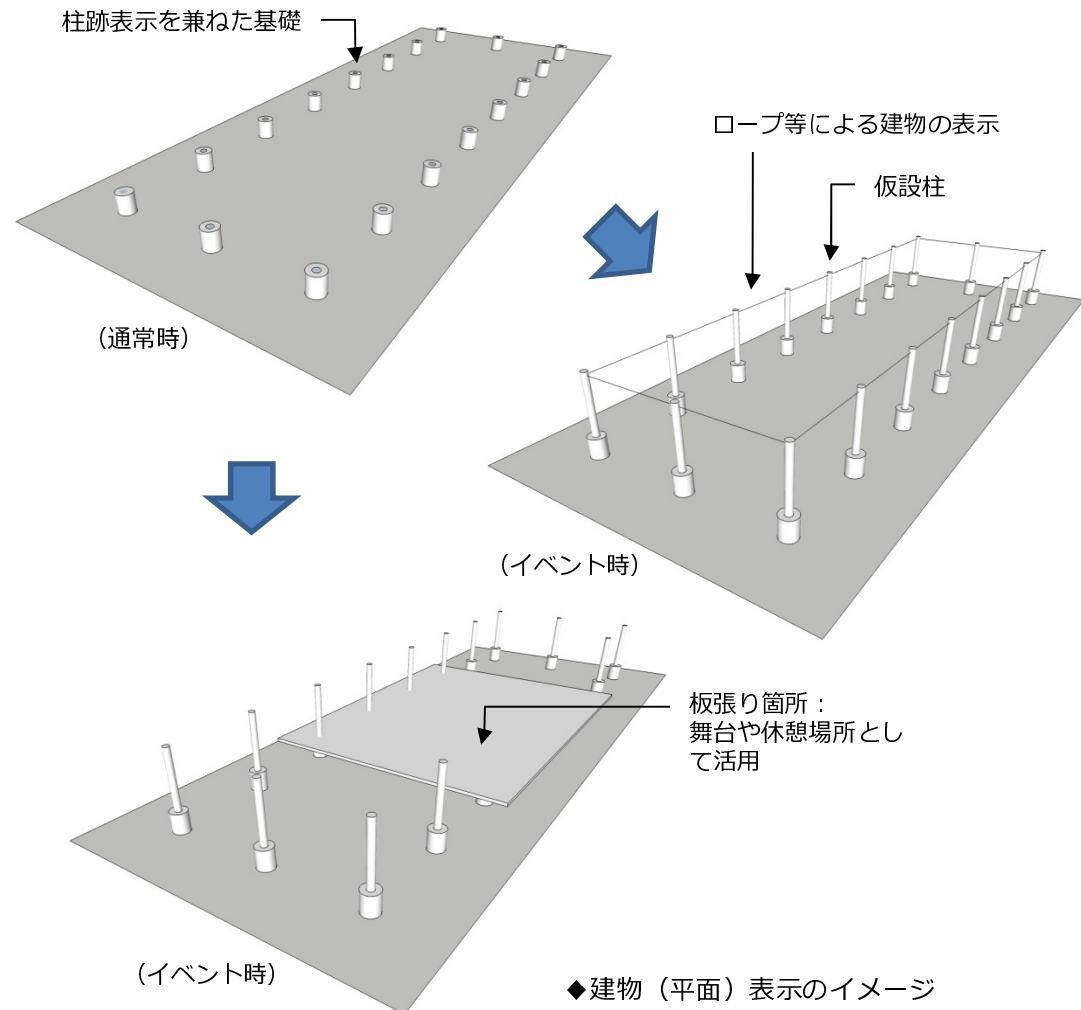
- 取り外し可能な仮設の柱等により、往時の建物の平面的な大きさや柱の配置などを表示する
- 一部に板張りの箇所を設けることにより、舞台や休憩場所としての活用にも対応する

具体的手法

- 建物の柱位置にStage 1と同様のコンクリート基礎+仮設柱を立て、ロープなどで建物の大きさを明示する
- コンクリート基礎の上に根太を渡し、板張り箇所を設ける
- 通常は基礎部を柱跡表示として活用し、イベント時等に仮設柱を設置する

特徴・効果等

- 建物の平面規模・配置がわかりやすくなるとともに、対象物を置くことで宮跡の空間スケールが実感しやすくなる
- 板張りの箇所を設けることにより、「表示」だけでなく舞台として使用するなど「活用」の可能性が広がる
- 夜間のイベント時には、ライトやイルミネーションによる表示にも活用する



4. 活用・整備のイメージ案 – Stage 3

目的

- 建物の大きさや高さを示す仮設物を設置し、往時の宮の様子をより分かりやすく表示する
- アートやイベントを通して往時の宮の様子を想像していただく
- 発掘調査でまだわかっていない（発掘調査だけではわからない）遺構等について、検証する場とする

概要

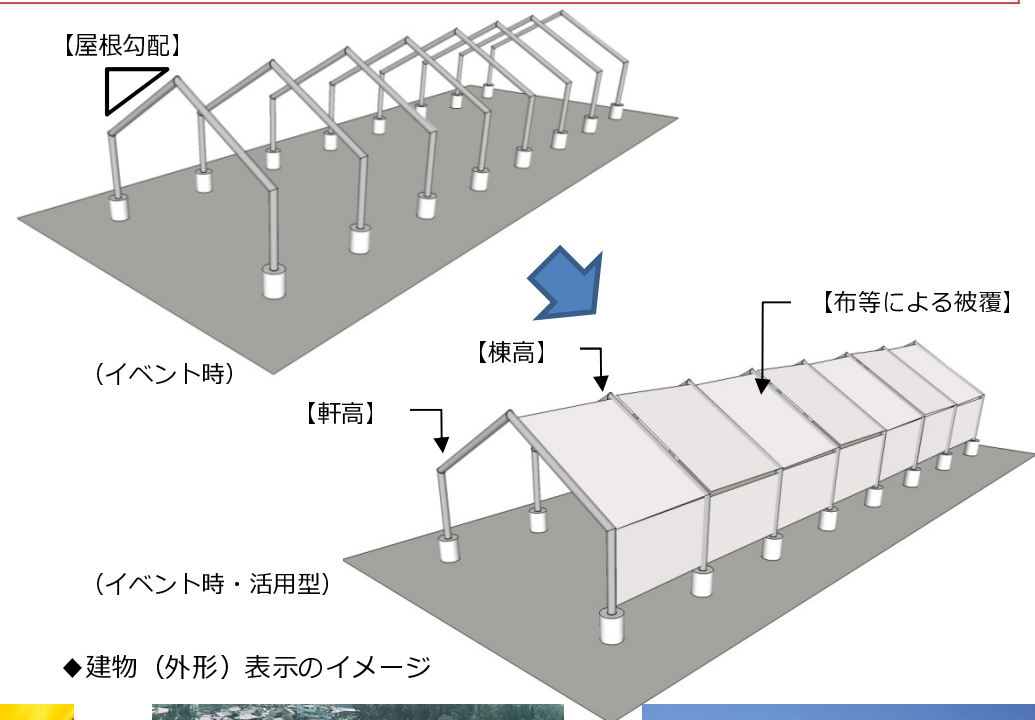
- Stage 1・2の仮設柱の発展型として検討を行う
- 取り外し可能な仮設物により、建物の外形（壁面・屋根面）の表示を行う

具体的手法

- 壁面や屋根面に布等を張り渡すことで、建物外形の表示にとどまらず、イベント時等にも「活用」可能な施設とすることを旨とする

特徴・効果等

- デザインの工夫により、建物の軒高・棟高・屋根勾配等を表現することができる
- 布を使ったアートや「壁面」を使用するゾウジエクションマップリング等のイベントの場にも活用できる



◆布によるアートのイメージ: <http://christojeanneclaude.net/>より



◆布（テント）を使用した仮設建物：なら・シルクロード博（1988）太陽工業（株）HP



◆足場の塔（大安寺）：東アジア文化都市2016奈良市HP